



Netz CUP

マガジンダイジェスト

気軽に参加できる、
画期的なナンバー付レース!

第1戦はエントリー台数80台!
続く2戦目も59台と大盛況。

全国のネットも
強力にサポート!

有名人も参加する
話題のレース。





6
14
週刊宝島誌

者達が挑んだ汗と笑顔のNetz CUP爆走体験レポート

うちのヴィッツが ロングマシンになった!



レース参加に興味はあっても敷居が高くて足踏みしていたレーサー予備軍の出番がきた。注目のナンバー付き車両によるヴィッツシリーズいよいよ開幕。最近サエない日本のレース界も、これで勢いを取り戻すのか!?

参加人数66名中、実に半数が初心者！ヴィッツシリーズいよいよ開幕!! 薄曇りの富士スピードウェイに 集まった、仰天の初心者さん達

ゴールドエンウィーク真っ最中の5月3日、富士スピードウェイで開催される「ネットカップ・ヴィッツシリーズ」開幕戦の出走者リストを眺めていて、「あやめ」と名乗る選手を見つけた。「おいおい、これじゃ芸者だよ」と思ったら、事情を知った人が「彼女は実は、その芸者です。新橋で現役の」と教えてくれて仰天した。確かにプロアマ混合の競技である自動車レースは、ときおりかなりの変わり種も登場するのだが、とうとうここまで来たか、と。

これも、ヴィッツレースが引き起こした異変かもしれない。ヴィッツレースは、今年始まったばかりの「登録ナンバー付き車両」で参加できるレースである。つまり、ふだん街乗りに使っているクルマでレース当日サーキットに乗り付け、レースを戦って、そのままのクルマで帰宅し、翌日からまたドライブや通勤やお買い物にも使える、という仕組みである。

これまで、ナンバー付き車両によるレースは許されていなかった。頭の固いお役所関係が、競技車両と乗用車はあくまでも別物だと言い張っていたからだ。そのおかげで自動車レースは初心者には縁遠いものになっていた。乗用車とは別に競技車両を作り、それをトランスポーターに載せて運搬するのは手間も金もかかりすぎた。

NetzCUP ヴィッツシリーズの魅力

今シーズンからスタートしたトヨタ車によるワンメイクレースがネットカップで、アルテッツアシリーズとヴィッツシリーズがある。両シリーズとも今年は、富士、鈴鹿、筑波、SUGO、TI、ハイルランドの全国主要6コースを巡って全8戦が行われる。そのほとんどが全日本GT選手権レースの前座として組み込まれている。ヴィッツシリーズは新たなレース参加者を開拓するための入門カテゴリー、アルテッツアシリーズはプロを自指す選手がワザを磨く国内最高峰の市販車ワンメイクレースという位置づけ。ナンバー付き車両で楽しめるのはヴィッツシリーズの方。上位入賞者、シリーズ上位ランカーに支払われる高額賞金も魅力だ。

4開幕戦には81台のエントリーがあったが、車両間に合わず結局66台が出た。



●取材・文/大串 信 ●撮影/折原弘之

NetzCup ALTEZZA Series x VITZ Series



レース

芸者さんからマイホームパパまで ヴィッツシリーズ 開幕戦の個性派ドライバー



ピンクのヴィッツを駆る新橋芸者
あやめさん(年齢不詳)

閑古鳥鳴くレース業界にあって、希望者多数のため車両が間に合わないほど盛況なヴィッツシリーズ。その中でもここで紹介する4人のような、ずっとレースにあこがれていた初心者達が、このシリーズの主役である。



心配する愛妻のために宇瀬落ちろ
阿部浩之さん(31歳)

▼佐賀から自走の疲れも見せず、レース初参戦だったにもかかわらず見事予選を通過、決勝を41位で終えたひとりで帰っていった。今後は佐賀から全載自走(！)で参加予定

▲奥さんの千夏さんは危険を理由にレース参加には難を示したが、ヴィッツならOKを出した。ところが「レースではずいぶん安全運転だな〜(笑)」などと不穏な感想

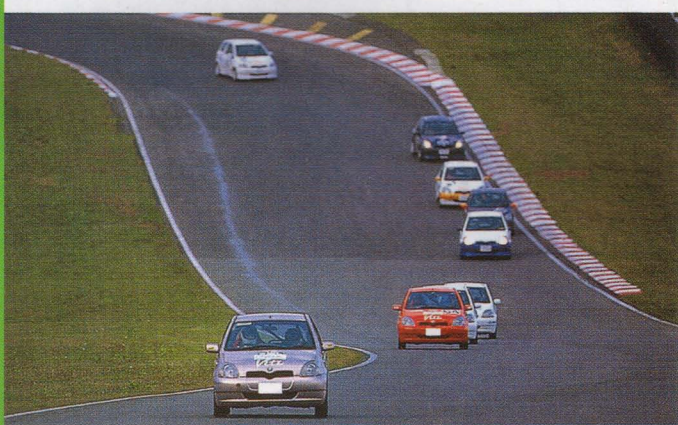


はるばる佐賀からやって来た
松尾龍宏さん(26歳)



気分はもうピクニック
高田英明さん(27歳)

▲奥さんの富士さんと息子の拓夢くんはピクニック気分、さすがに拓夢くん用チャイルドシートはレース中では取り外した。自家用車も乗っているのでも順位は無事完走が目標



参加者は人気レース全日本GT選手権の前座として大観衆の前を走る。ちょっとしたプロ気分も味わえる。



▶ 華やかな身体シートに面し、出陣。ふた人は和服でクルマを乗り回すという珍現象

127

「山猫レース」で走らざるをえなかった。ところが世の中は皮肉なもの、お手軽な非公認レースは結構人気を集めちゃったりしていたのに、正式のレースは入門者が激減していた。ヴィッツレースはこうした事情に正面から踏み込み、突破口を開いた。そしてその突破口に、これまで行き場所を見つけれずにいた入門志望者が、目覚めたようにどっとなだれ込んだ、というわけだ。

あやめさんそのひとり。レース当日、あやめさんは、いつもの和服をレーシングスーツに着替え、それでもお化粧は忘れずに、えもいわれぬお色気を発散しつつパドックに現れた。でも「今日、お稽古サボってレースに参加しちゃったから、帰ったらお姐さんに叱られちゃう」んだ

それで、まあ、ほとんど前代未聞の事態ではある。

そう思ったあたりを見回すと、ヴィッツレースのパドックにはいろいろ、ふだんレースのパドックでは見られない、初々しい選手がうようよ集まっているではないか。聞いてみればこのレースには66台に及ぶ参加があったが、およそその半数が「レースは初めて」なのだという。これほどまで初々しさにあふれた非公認レースが、かつてあったらうか。

たとえば高田英明さんは、助手席に奥さんの富士奈さん、ロールケージに囲まれた後部座席にはチャイルドシートを装備し1歳1か月の愛息拓夢くんを乗せてサーキットへやってきた。大学時代は自動車部の部長を務めながら、これまでレース経験はなかった。ヴィッツレースが若き

Next Page



子供の頃からずっと自動車レースにあこがれてきた

それぞれの想いをのせ 小さいヴィッツがひた走る

日の夢をよみがえらせてしまったのだ。「でも、順位は二の次、このクルマは自家用車も兼ねていますから、とにかく無事に帰らないと」と、高田さんは楽しそうに笑う。

阿部浩之さんは、奥さんの千夏さんと3人で千葉の松戸からやってきた。実は今回開催された開幕戦は、5月2日に合同練習、5月3日に予選と決勝というスケジュールで行われた。「結構早くと同レベルの初心者が多いので、安心しました」と言う阿部さんは、費用を抑えるため千夏さんと2日間にわたって松戸の自宅と富士スピードウェイの間を「競技車両」で往復した。いかにもナンバー付き車両レースならではの戦い方だ。



▲予選落ちレースに出走したあやめさん(左)は、トップから半周近く遅れながら見事完走



松尾龍宏さんにはあやめさん以上に驚かされた。彼が自宅のある佐賀から、たつたひとりで競技車両を2日間かけて運搬してきたという。パドックにたどりつくなり、まずはキャンプ用のテントを広げて基地作りにかかり、練習も予定もひたすら練習を繰り返した。



とり黙々と走る。旧き良き時代のイギリスのクラブマンレースを思い浮かべたのは年寄りのオレだけか？松尾さんは「ヴィッツレースのことを知って、これだと思った」瞬間にクルマを発売、ミレニアムイヤーにちなんで、登録ナンバーも2000番を確保してレースに臨んだこだわりの派でもある。

ちなみにあやめさんもこの3人もレースは初めて。もちろん、本気で参戦している本格派や元プロボクサーの薬師寺保栄さんなど有名系もいるが、半数はこうした草レース指向の超初心者レーサー達。パドックには、ヒクニック兼走行会みたいな不思議な雰囲気が流れる。これだけで、気持ちいいかも。

ちなみに、松尾さんは見事予選を通過し45台による8週の決勝に進出したが、あやめさん、高田さん、阿部さんは残念ながら予選落ち。ただし初心者向けのヴィッツレースには、予選落ち組だけの4周レースまで用意されていて、参加者全員がしっかりとレースを堪能して帰っていった。彼らの本当に楽しそうな顔を見ていて、取材なんかするより、今度はオレも彼らと一緒に走りたいと思った。

ステッカー

シリーズ・スポンサーのステッカー張り付けが義務づけられる。これだけでも、クルマは一気にレーシングな雰囲気になる。

シート&シートベルト

シートはノーマルでもよいが、多くの参加者は、レースに向けバケットシートに交換していた。4点式シートベルトは公道走行時には使用不可で、少々面倒だが取り外さなくてはならない。

Netz CUP ヴィッツシリーズに出場するには

まず車両を準備する。TRD-MSBを購入すればそのまま最小限OK。もしベース車両となるヴィッツをすでに持っていたら、安全装備や強化パーツを追加すれば良い。特別なメンテナンスをする気になれば友だち同士あるいはたったひとりでもレースに参加することは可能。ちなみにエントリーフィーは1レース3万5千円+消費税。Netz Cup ヴィッツシリーズに関するお問い合わせは、T.R.A. (トヨタカーズ・レース・アソシエーション) ☎03-34 09-2391 (祝・祭日を除く月～金、10時～12時、13時～17時) まで。また、インターネット (<http://www.toyota.co.jp/ms/>) で手引き書その他詳細情報入手できる。

SPEC

排気量997cc、最高出力70ps/6000rpm、最大トルク9.7kgm/4000rpm、5M/T・3トア、これにロールオーバー防止機構(強化サスペンションはオプション)を組み込んで、ベース車両より22万円高の106万0000円(税別)



タイヤ&ホイール

ノーマルタイヤなら銘柄は自由。ただしいわゆるSタイヤ(競技用)は不可。サイズや空気圧の選択に勝負を左右するポイントがありそう。サイズは155/80R13~185/60R14の範囲に限られる。

エアロパーツ

純正部品、純正オプション部品に限り装着可。個性派にはちょっと物足りないが、性能均衡、コスト抑制のためにはしかたがない。

エンジン

性能に関わる一切の改造は不可。つまり、みんな同じ条件で競争ができる。70psと確かに非力だが、それだけ腕がモノを言う。

トヨタ・ヴィッツ TRD-MSB

ヴィッツレース用競技車両「ヴィッツTRD-MSB」は全国ネット店で「乗用車」扱いで販売されるのだ。問い合わせは、最寄りのネット店または株式会社トヨタモテリスインターナショナル「カスタマイズ・コールセンター」☎03-5453-5083 (祝・祭日を除く月～土、10時～18時) まで。

限りなくノーマル車

Netz CUP用ヴィッツは こんなクルマ



待望のナンバー付き！ ヴィッツワンメイクレース 全開でスタート！

5月2日 第1戦
富士スピードウェイ

注目のヴィッツレースが開幕。最大の話題は、ナンバー付きのクルマでレースをする“Nゼロ”と呼ばれるカテゴリだということ。それを聞いて興味を引かれた人も多いだろう。実際、ヴィッツレースは、クルマの供給が間に合わないほどの大人気を集めている。つまり、気軽に低コストでできるレースが、多くの人に待ち望まれていたわけだ。ナンバー付きのクルマでレースをすることに、どんな意味があるのか、その実態を探ってみた。

report&photo:鈴木悦夫

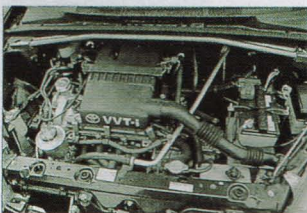


ドライバー誌
6/20号

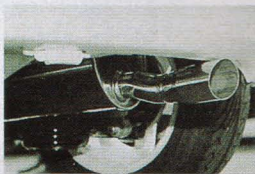
Netz Cup ALTEZZA Series & VITZ Series

低コストに抑えるために 限られた改造点

●エンジンはノーマル。エンジンマウント、エアフィルターなどは、T.R.A. (トヨタカーズ・レース・アソシエーション)認定部品(TRD製)と交換が可能だ



●マフラーは純正品のままでも問題はないが、少しでもポテンシャルアップをしたいなら、T.R.A.認定部品のTRD製ハイレスポンスマフラーにのみ交換できる



●レースが終わった後にも、車検がある。公道を安全に走行できるか、しっかりとチェックされる。これに合格しないと、自分のヴィッツに乗って帰ることはできない



●全国のネット店で発売されるヴィッツ“TRD-MSB”、MSBは、モーター・スポーツ・ベリックの略。最低限の安全装備が装着されたレース用ベース車両 (106.6万円〜)。各大会の優勝賞金は30万円、年間チャンピオンには150万円が贈られる



●強い横Gがかかるサーキットを走るので、シート選びは重要。ホールド性能の高いフルバケットタイプが主流だ。保安基準適合品なら交換可能



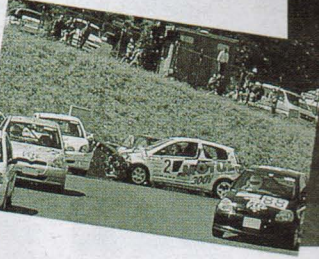
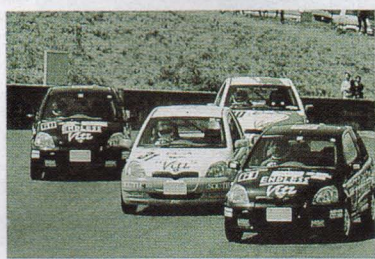
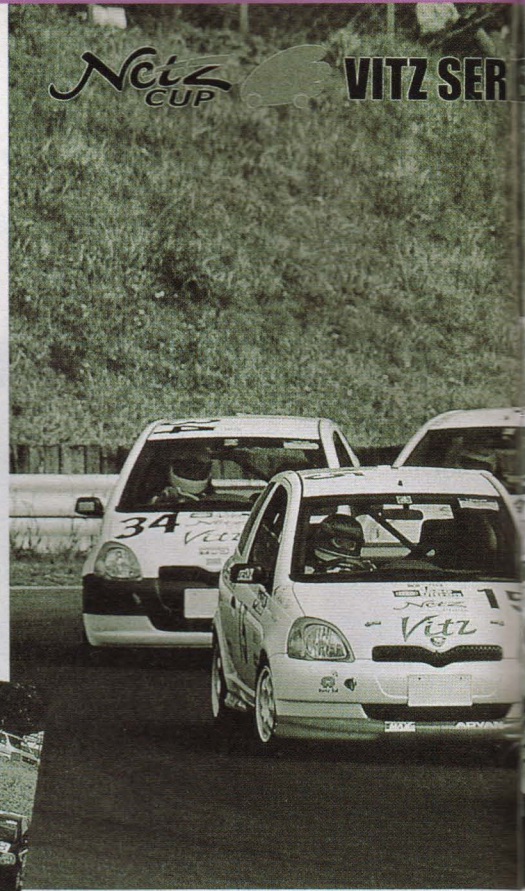
●足まわりは、TRD製の車高調整式サスペンションのみに交換が可能。パーツが間に合わずに、純正品のままレースを走るクルマもいた



●ブレーキパッドのチョイスも重要だ。サーキット走行に適したタイプに交換。純正品交換タイプであれば、どんなタイプのパッドでも交換可能



Next Page



開幕戦は、予選と決勝が同日に行われる1デーレース。66台を2組に分けて行われた予選の上位45台が4周目に進出。残りの21台で争われた4周のコンソレーション（予選落ち）レースは、最終ラップまで激しいトップ争いが展開。6番手グリッドの筒井紀美子がトップに立ち、0.036秒差で逃げきって優勝。続くウィッツレースは、ボールの八田新一がスタートを切り、それに確井久彦、村田信博、谷口いづみの4台が続いてトップ集団を形成。この4台がレースをリードしていった。5周目の1コーナーでは、スピンしたマシンに後続車が追突して、2台がコースアウト・リタイアというアクシデントが発生。その後もトップ4台のバトルが続いたが、5周目にトップに立った村田が、落ち着いたレース運びで記念すべきNゼロの開幕戦を制した。「全員が同じ条件のクルマで戦うこのレースで勝てたのはうれしい」と村田。彼は、筑波のストックカーレースに8年前から参戦し、昨年はGT-Rをドライブ。今回、新カテゴリに挑戦して、初戦を見事に優勝で飾った。

■レース結果 晴れ/ドライ 予選66台 決勝45台 完走43台

順位	車番	ドライバー	チーム	周回数	タイム
1	60	村田 信博	エンドレス アドバン ヴィッツ	8	18'27"008
2	31	八田 新一	サウスμ REDLINEヴィッツ	8	18'27"143
3	10	谷口いづみ	ネットトヨタ千葉Vitz	8	18'29"418
4	61	確井 久彦	エンドレス アドバン ヴィッツ	8	18'30"245
5	36	小野田貴俊	CRUXネット山梨ネオバVitz	8	18'42"547
6	1	小野寺康文	マジョーラク2 スノコムVitz	8	18'42"903

■大会開催日程

	開催日	開催地	メインレース
第2戦	5/27~28	SUGO	全日本GT選手権
第3戦	7/2	筑波	筑波チャレンジカップ
第4戦	8/5~6	富士	富士スペシャルGT
第5戦	9/9~10	T1	全日本GT選手権
第6戦	9/23~24	ハイランド	全日本F3選手権
第7戦	10/21~22	鈴鹿	全日本GT選手権
第8戦		未定	

●Nゼロとは？

JAFの国内レースで、市販車をベースにした競技車両には、量産ツーリングカーのN1、特殊ツーリングカーのN2、グランドツーリングカーのN-GTがある。昨年12月、レースの健全な発展を図るために、自動車登録番号標（ナンバー）付き車両によるレース開催規定が制定された。これがN1の下に位置することから、通称「Nゼロ」と呼ばれる。ジムカーナやダートラで使われるスピードA車両という規定がベース。これで車両の製作コストが削減でき、ナンバー付きで自走ができるので、レース参戦にともなう経費も節約できるという利点がある。

参加者の声が多かったのが、「ベイス車両が安い」ということもレースはお金がかかる」ということ。ネット店で買えるモータースポーツベイスモデルのヴィッツGT

今年から正式にスタートしたナンバー付きのクルマで争われるNゼロレース。そのトップバッターがウィッツ・ワンメイクレースだ。「ネットカップ」として、トヨタ車のワンメイクレースが新たなスタートを切り、アルテッツァとウィッツという2車種が、それぞれ激戦を展開する。さて、ウィッツシリーズは、ディーラーで販売するナンバー付き車両で気軽にレースに参戦ができて、しかも車両の改造も制限されるので、車両の製作費も安いというのが特徴。これで、一気にレース参戦の敷居を低くしようというのがねらいだ。その思惑はヒタリと当たって、開幕戦にはなんと80台以上のエントリーを集めた。だが、車両の供給が間に合わず、実際には66台の出走にとどまった。しかも、レース直前にクルマが納車され、足まわりがノーマルのままだったり、予選が初走行というクルマもあった。いくらナンバー付きといっても、レース用の車高調、整式サスペンションとスプリングを装着していなければ、とてもサーキットを思いどおりに走れない。



期待のナンバー付き! ヴィッツワンメイクレース 全開でスタート!

これぞサンデーレースのお手本!

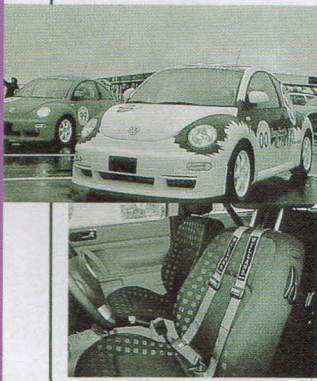


⑤ 高田英明選手
コンソレーションレース19位

本気で参戦する人が多いなかで、5人乗り仕様のマシンでレースを楽しんでいたのが、高田英明さん一家だ。ドライバーの英明さん、奥さんの富士奈さん、1歳の拓夢ちゃんの親子3人。英明さんは、走行会の経験はあるが、レースは初めて。アルテツァを売って、ヴィッツを購入した。「初体験だったので、スタートの1コーナーは怖かったです。無理をしない範囲で、長く続けられる趣味にしたいですね」と英明さん。「突然、レースをやりたいと言うので、『なにバカなこと』と思ったのですが……。でも、結婚前からの主人の夢だったので、とにかく、主人が無事でよかった。私自身も楽しめたし、子供もノビノビと遊べました」と、富士奈さんも満足そうだった。



こちらもNゼロ New Beetle Cupも発進!



今年スタートするもう1つのNゼロレースがニュービートルカップだ。使用するクルマは1.8ℓDOHCターボ(150馬力)に5速MTを組み合わせたニュービートル1.8Tカップカー。1台350万円で、今年は20台が輸入される予定だ。出場資格には制限があり、一定以上の戦歴がある人はエントリーできないシステム。改造できるのは指定のダウンスプリングなど数カ所に限られ、純正シートの変更も許されない。この点は、ヴィッツ以上にノーマル然としたレースになりそうだ。(本誌・岨山)

⑥ 松尾龍宏選手
決勝レース41位



佐賀から1人だけでレース参戦。「1周目の1コーナーで少し順位を上げましたが、途中で抜かれて、そのままゴール。レースは、おもしろいですね。これから家までの1100km、途中で健康ランドに1泊して、一般道走って帰ります」

⑦ 筒井紀美子選手
コンソレーションレース優勝



鈴鹿のシビックに5年ほど参戦。「予選落ちにはショックでしたが、気持ちよく走れました。コースにもクルマにも慣れていなかったもので……。スリップストリームの勉強になりました。車両をマイカーローンで買えるのも魅力です」

⑧ 内田真人選手(右)
決勝レース38位



「レースは初経験。コーナーでギリギリ頭を入れられるかどうかの争いがおもしろいけど、怖い……。のが正直なところ。年間300万円くらいの予算です。このヴィッツは、レースに1年間使ったあとは妻の買い物用車にする予定です」

⑨ 谷口いづみ選手
決勝レース3位



「スピードは遅いけど、十分におもしろいですよ。ちょっと変わったレースですけど、うまくなりたい、速くなりたいと思う人が、これをきっかけに参加してくれればいいな。女性に期待しています」

ヴィッツレースは、今年も全国を転戦するシリーズだが、来年は地方レベルのシリーズ戦に発展させたいという。そうすれば、地元でのサーキットで、さらに気軽に参戦できるようなことになるわけだ。Nゼロレース発展の原動力になることを期待したい。

また、レースなどのモータースポーツに参戦した時点で、メーカーの車両保証もなくなってしまうので、ふだんの足に使いたいという人は、それなりの覚悟が必要だ。

また、レースなどのモータースポーツに参戦した時点で、メーカーの車両保証もなくなってしまうので、ふだんの足に使いたいという人は、それなりの覚悟が必要だ。

また、レースなどのモータースポーツに参戦した時点で、メーカーの車両保証もなくなってしまうので、ふだんの足に使いたいという人は、それなりの覚悟が必要だ。

R D I M S B は、安全装備のローケルゲージや4点式シートベルトが装備されただけのベース車だ。これに、TRD製の車高調整式サスペンション、スポーツシート、マフラー、強化



気軽に参加できるナンバー付レース 「Netz Cup ヴィッツシリーズ」

「Netz Cup ヴィッツシリーズ」はキュートなヴィッツによって争われるワンメイクレース。色々なメディアで紹介され注目度が高い、その理由のひとつが**“JAF公認のナンバー付き車両による”**レースだということ。いままでのレース車両はサーキットでのレースを前提に特別な改造が施されているため一般公道を走ることができず、トラックで搬送しなければならなかった。ところが、ヴィッツシリーズでは改造範囲を制限し、レース後に「公道走行チェック」を実施するので**一般公道での走行もOK**。つまり、普段街で乗っているヴィッツでサーキットまで自走してレースに参加し、また帰って帰ることも可能という、**スゴク画期的なレースシリーズ**なのだ！



詳しくは！

<http://www.netztoyota.com>

Netz
TOYOTA

スピードはひかえめに。
シートベルトやチャイルドシートを忘れずに。